

image circle

イメージサークル

2016年12月号 Vol. 198 平成28年12月5日 発行 Homepage: <http://lpa-japan.sakura.ne.jp/index.html>

発行人 鈴木 克彦 編集人 松本 憲治

本部：606-8174 京都市左京区一乗寺染殿町3-708（鈴木克彦方）携帯 080-3133-2651 TEL&FAX 075-781-3854

事務局：599-8111 大阪府堺市東区日置荘北町1丁47-5（松本憲治方） TEL&FAX 072-285-2575

名古屋支部：460-0014 愛知県名古屋市中区富士見町 13-19 富士見町八木ビル601号

プロフォート・NAGOYA内 TEL&FAX 052-332-7740



宮城県 / 錦織の秋保大滝

4×5 210ミリ

インパクトについて

会長 鈴木 克彦

衝撃、影響（力）、迫力、意外性、記憶に残る作品、等々自然界では予想を遙かに超えた現象などに出くわすことが多々あります。もっとも箱庭的な日本の中ではなかなか出会えない景観も、タイミングが良ければ偶然に出会えることもこれまた沢山あります。「犬も歩けば棒にも当たる」ではありませんが、旅をし、または撮影取材行を通して、観察眼を養いたいモノです。

よく観察すると言う事は、その景観をものにするには、季節、時間帯、光線具合など（光線も季節により変化します。）計算していつ頃、何時頃と狭めていけば、あとはその場所でのカメラ位置を確認することです。このカメラ位置の取り方が問題です。上から、下から、横ずらしなどなど。ここに観察眼

（感性）の善し悪しが出てきます。繰り返しになりますがレンズの選定も併せてそれも瞬時に決断しなければ、インパクトある場面（景観）が逃げてしまいます。

自然界での撮影は、なかなか厄介なものです。室内の物撮りでは、ライティングを駆使してイメージを高めていきますが、自然界の撮影では、自然光の中の世界ですから、理想的な背景の捉え方には苦勞させられます。空には雲、ちぎれ雲の合間からの光線と…「妥協」の共生とでも表現できるかも知れませんね。

くどくどと申し述べましたが、「そんなこと言われなくとも知っとるわい！」と。後は我慢するか、今回は諦めるか、折角来たのだからと取りあえず1枚。サクラ然り！紅葉然り！毎年様相が違います。「だから面白い!？」

2017展作品選定の進捗状況

運営委員長 田中 明

いよいよ師走を迎え寒さも一段と厳しくなりますが、まずは体調にご留意の上、撮影にお臨みください。

11月研究会において、無事、2017展会員展の出展作品の最終確認を完了することが出来ました。これも偏に、会員諸氏のご協力の賜物と、この場を借り厚く御礼申し上げます。会員展の出展予定数は自由42点(40名)、課題9点(9名)、モノクロ21点(10名)、合計72点(47名)の見込みです。

11月研究会後に開催しました運営委員会で、2017展で初めの展示となるモノクロ作品の出展について、出展者1名あたりモノクロ作品は最大4作品(出展料は2点出展として計算)まで出展可となりました。これはモノクロ作品の展示数を増やし、展示コーナーをにぎやかに演出するのが狙いです。(前述の出展数は、この出展作品数変更に基づき算出)

2017展に出展される会員の皆様へは、出展作品一覧表を同封致しますので、各自、ご自分の出展作品の題名・撮影場所・撮影時期・出展作品サイズ(全倍・四全倍)に間違いがないか、今一度ご確認下さい。万一、記載内容に間違いがありましたら、お手数ですが事務局宛に直接ご連絡下さい。

11月26日に、名古屋支部四役、本部運営・実行委員8名の計12名により、公募展の出展審査を行いました。応募人数は41名、応募作品数は、自由作品：79点(36名)、課題作品：20点(10名)、モノクロ作品：19点(9名)の合計118点でした。厳正なる出展審査の結果、自由：35点、課題：9点、モノクロ：14点の合計58点が入選作品に選定されました。審査にご協力戴きました委員各位にはお疲れ様でした。

以上より、2017展の展示作品数は、会員展自由作品が42点、公募展の自由作品が35点、課題作品が18点、モノクロ作品が36点の最大132点程度の出展を予定しております。

また、既にご連絡の通り、京都展会場の京都市美術館は、2017展が終了した後、2017年4月より改修工事に入り、向こう3年間は使用できません。京都展の代替会場は、

- ・2018展は神戸市元町の兵庫県民会館
 - ・2019展は神戸市灘区原田の森ギャラリー
- で「神戸展」として開催する予定です。

12月研究会のお知らせ

研究会担当 垣内 晃

◎年内最後の12月研究会を、下記の通りの日程で開催致しますので、皆様、万障繰り合わせの上、ご参加下さい。

日時：12月17日(土) 13:30~17:00

場所：大阪・南船場 大阪写真会館
3階会議室

内容：

1. 2017展 入場券用作品の選定：
会員展出展作品の横位置作品の中から、2017展入場券印刷用の作品を選定します。
2. 作品投影：
12月撮影会の作品など投影を希望する作品がありましたら、12月15日必着で事務局宛に原板を送付するか、当日デジタルデータを持参するか何れかで作品を提出下さい。
3. モノクロ研究会：
自分で暗室作業を行って作品を仕上げたい方に、レンタルラボの紹介を行う予定です。その他に全紙プリントを手焼き依頼できる大阪の「モノクロ専門ラボ」の紹介も予定。

年明け以降の研究会は、以下の予定です。

◎1月研究会&新年会を下記日程で行います。

日時：1月21日(土) 12:30~15:00

場所：大阪写真会館 3階会議室

※新年会参加費：2,000円(弁当・飲物代)

新年会への参加申し込みは、**1月号に同封予定の「新年会出席ハガキ」にて、1月15日(必着)までにご連絡**をお願い致します。新年の多忙な時期ですが、多くの会員の皆様にご参加戴きますよう、宜しくお願い致します。

◎2月研究会を下記日程で行います。

日時：2月11日(土) 13:00~17:00

場所：高槻市生涯学習センター 会議室

内容：2017展展示作品のプリントチェック
2月研究会は、堀内カラー様のご都合により祝日の開催となるため、今回初めての場所での開催となります。開催場所の詳細は、1月号イメージサークルにてご案内の予定です。

3月と4月は、写真展開催と時期が重なるので、例年通り研究会はありません。

2018展出展候補作品の選別会は、5月研究会から開始します。5月の選抜会開始に向け、冬から春の間に大いに作品を撮り溜めて下さい。5月研究会で皆様の力作を拝見できるのを、楽しみにしております。

※※※※重要なお知らせ※※※※

出展作品の原板フィルムとデータシートの提出のお願い

事務局 松本 憲治

2017展に出展される会員の皆様へは、出展作品一覧表を同封致しますので、各自で記載内容をご確認下さい。

出展作品のデータシートと原板フィルムの提出を『事務局宛に11月研究会までに到着』するようお願いしておりましたが、未だ提出されて無い方がおられます。堀内カラー様へ全作品の原板フィルムを一括提出するスケジュールが大幅に遅れ、大いに迷惑してます。未だ、データシートと原板フィルムを提出してない方は、12月7日(水)(必着)迄に事務局宛に郵送下さい。

今回が最終の提出締切りとなります。期日までに未着の場合は出展取り止めと見なし、出展作品リストから削除します。

なお、11月研究会で差替え希望作品の出展が承認された方へは、既に提出載っていました作品は今月号に同封して返却致します。

※※※※※※※※※※※※※※※※

「冬の富士山撮影会」のご案内

撮影会担当 高田 幸二

富士山の撮影は白く冠雪した冬場に限り…と云うことで、平日の1月11日(水)~13日(金)2泊3日の日程で「冬の富士山撮影会」を催行致します。

パノラマ台から「富士と夕日」、山中湖と田貫湖の周辺から「早朝の富士」を狙う予定です。今回は前田会員に現地の撮影ポイントを案内して戴きますが、昼間は自由行動の撮影会としますので、ご自分の好きな場所での富士山撮影も堪能して戴けます。

撮影会の詳細は、同封の撮影会案内を参照下さい。宿舎の予約の関係で、12月20日(当日の消印有効)までに、同封の参加申し込みハガキでお申込みください。

今回は、久々の関東方面の富士山撮影会です。関東や信州方面の会員の皆様も、是非とも参加のご検討をお願い致します。

※※※※重要なお知らせ※※※※

2017展出展諸費用について

会計 橋本 雅由

2017展に出展ノミネートされました会員の方へは、11月号に「ノミネート作品一覧表」を同封し、出展諸費用のお振込みをお願い致しました。既に多くの会員にお振込みを戴いておりますが、未だお振込みを済まされてない方は、お手数ですが12月25日が振込期限となっておりますので、期日までにお振込を完了戴くようお願い致します。

なお、会員一人当りの出展作品数は、例年と同様、出展に関する規定と出展に係る諸経費は、以下の通りです。

◎2017展においても、例年と同じく、各会員が出展できる作品数は、

1. 自由、課題の両部門で合計2点までです。
2. 同一部門に2点出展する場合は、出展する作品サイズは、1点は四全倍、もう1点は全倍になります。

- 自由と課題に各1点ずつ合計2点出展の場合は、出展する作品サイズは自由です。
- モノクロ部門は、自由・課題の部とは別に、前述のとおり今回『最大4点まで出展』できることになりました。出展料は2点まで作品1点、4点まで作品2点として計算します。

◎出展諸費用と振込先の口座は、11月号に同封の「出展諸費用の一覧表」を参照下さい。

◎基本的に、出展諸費用は『一括して12月25日まで』にお振込みをお願い致します。

分割でお振込み戴く場合には、入金集計処理の関係から、

- 12月25日までに作品制作費（モノクロは額装代）を振り込む
- 1月25日までに残りの出展料と作品集制作費の合計額を振り込む

の2分割でお振込みをお願い致します。

※※※※※※※※※※※※※※※※

※※※モノクロ研究会※※※ レンタル暗室体験記

モノクロ研究会 松本 憲治

「日本大判写真展」2017よりモノクロ作品展示を開始するのに伴い、今年度から研究会の活動としての「モノクロ研究会」も始まりました。イメージサークル誌においても、4x5フィルムの簡易型引伸し機の製作記、モノクロ撮影時のフィルターワークやフィルムの現像処理方法、或いは現像条件についての記事などを掲載しました。

モノクロフィルムを使って撮影する上での最後にして最大の楽しみ… と云えば、それは間違いなく『暗室作業によるプリント制作』と云えるでしょう。10月号では『モノクロ現像用の道具』についての記事を掲載しましたので、4x5モノクロフィルムの現像に挑戦された方もおられるかと思いますが、モノクロ写真の最後の関門とも云える『暗室でのプリントの制作』については、暗室設置のハードルの高さから未だ二の足を踏んでいる方も多い

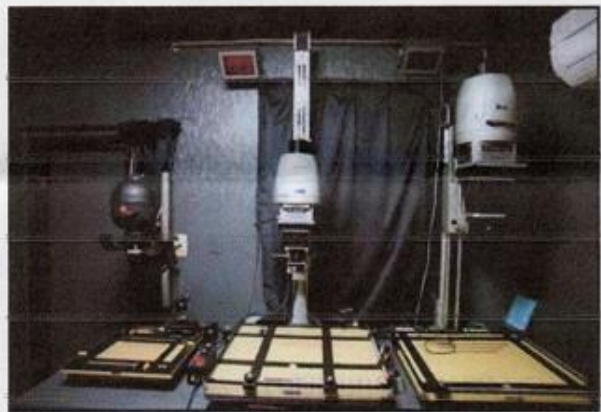
のでは？ と云うことで、今回、『レンタル暗室』なるものを体験しに行ってきましたので、その体験記を報告させて戴きます。

今回のレンタル暗室は、『LimeLight』(URL:<http://gallerylimelight.web.fc2.com>) と云うお店で、場所は南海高野線 帝塚山駅から距離にして4~500m程のところで、私の住む堺市から一番近いレンタル暗室です。私自身、これまで暗室作業自体、橋本会員宅の暗室で2回手ほどきを戴いただけの、云わば「暗室作業のズブの素人」で、今回の体験記は「暗室でのプリント作業に挑戦しようか？」とお考えの暗室作業未経験者の方には参考になるかと思えます。

◎レンタル暗室での作業内容：

事前に電話で予約した午後1時頃にお店（と云っても普通の民家を改装したギャラリー兼レンタル暗室）に到着。暫し「どのようなネガをプリントしたいのか？」などの四方山嘯を…

暗室の薬品の準備などが終わった後、暗室内にある機材の説明と、プリント引伸し/現像の手順と注意事項を説明して頂く。技術的には素人レベルなので、店主に出来るだけ同席して戴いてプリント作業全般の指導とアドバイスをお願いすることに。



暗室内の様子（引伸し機）
一番右にある引伸し機を使って作業を行った

まずは1枚目のネガの引伸し作業に入ります。今回は8x10サイズのイルフォードのマルチグレードRCペーパーを使って、六切りプリントの制作です。初めての作業ということで、コントラストフィルターの号数を変えた

り、プリントする際の覆い焼きや焼き込み作業等は一切行わず、「コントラストフィルターは全て2号を使い、適切なプリント濃度を探りながらストレートに焼く」ことで、プリント作業の基本を学ぶことに決めて作業を開始。

最初の1枚目のネガの濃度をチェックし、テストストリップ（短冊状の印画紙）での段階露光の秒数と露光回数を決めます。1枚目のネガは絞りF11で2秒間隔で5回露光を行い、2秒から10秒までの5段階の露光でテストプリントします。結果、6秒から8秒の間辺りに適正露光がありそうなので、再度6秒と7秒（6秒露光後+1秒露光）の2段階の露光時間でテストストリップを作成。7秒では濃すぎるプリントなので、6秒か6.5秒辺りが適正露光か？ 判断が難しい…

まずは1回目の六切りプリントは、6秒露光で行う。現像後に水洗して全体の濃度などを確認。ほぼこれでOKとする。（プリントが完全に乾燥した後に再確認すると、個人的には「かなり濃い目のプリント」と云う印象だが、全紙サイズまで伸ばす場合、銀塩粒子の密度が下がることで印象が変わってくるの話も…）

2枚目以降は、1枚目のネガの濃度と比較しながら「かなり濃度が薄い（暗めの被写体の）ネガは、絞りを1段絞ってF16」に変えて、露光時間を長く取れるようにするなど工夫して、テストストリップの段階露光を行う。この後は、1枚目と同様の作業を淡々と進めていく。

この日は3時間の暗室作業で6枚のネガを焼き、プリント作業を終了した。最初から2枚目のネガまでは、かなり慎重に作業を行ったのでプリント作業に時間が掛かったが、後半の4枚については、始めの2枚のネガのプリント条件から判断した露光時間をベースにほぼ確実な露光時間を狙って段階露光の試し焼きを行い、効率的に本番プリント作業が終わった。

RCペーパー用の乾燥機で、仕上がった6枚のプリントを乾燥した後、店主の方とプリントの出来を確認しながら、意見交換を行う。空の雲を主題にした開田高原の撮影会で撮っ

た作品は、コントラストフィルターを2号から3号に変えてコントラストを強くプリントすれば、2号ではグレーになってしまった雲の部分がより白く出て作品の印象が変わるなどのアドバイスを貰う。また、今回のプリントの濃度については、全紙でプリントする場合には印象が変わる（画像が拡大されることで粒子の密度が低下することや、2点出展するのなら、この作品とこの作品が繋がりが良いのでは？など、作品の展示についても色々アドバイスを貰う。

◎今回の体験での反省点：

●レンタル暗室で自分の好み通りのプリントを仕上げるには、事前準備が重要と痛感。

初めてプリントするネガの場合、暗室内で印画紙に焼いた時に初めてポジ画像を目にすることになる。その時に「こんな感じのプリントに仕上げたい」と云う自分の明確なイメージがないと、露光テストでの段階露光でのプリント濃度のチェックにしても、適切な判断が出来ないことを痛感。

●もし自分でネガをスキャンしてモノクロ画像を印刷出来るのなら、事前に好みの濃度のプリント見本を作っておくのがお勧め。

○印画紙にプリントするのに、事前にプリントを作るのは何ともオカシナ話だが、ネガを見て反転したポジ画像を想像するのは、モノクロ初心者には至難の業。暗室作業で印画紙を無駄にしないためにも、事前に4x5フィルムサイズに近いKGサイズ用の紙に、スキャンした画像を好みの濃度でモノクロプリントして準備しておくのは有効。

●引伸し機の光源の方式（「散光式」か「集散光式」か）で、最適な濃度の露光時間は大幅に異なる。

これは露光する光の強度が違ってくるので当たり前の話だが、「集散光式」の引伸し機だと、ネガの濃度次第では露光時間が極端に短くなり、露光時間が1秒違ってても仕上がりは極端に違ってくる。極端に明るいネガ（暗い被写体のネガ）なら、引き伸ばしレンズの絞りを1段絞るとかで対策は可能。どちらが良いとかの話ではなく、光源のタイプの違いを考え

た上で、絞りと露光時間を検討する必要があるということ。

個人的には、散光式の方が（露光時間を長めに取れるので）、初心者には扱いやすいとは感じるが…

以下、四方山情報です。

◎レンタル暗室LimeLightに関するミニ情報：

・全紙プリントが可能！

今回六切りサイズのプリント作業でしたが、使用したイーゼルは小全紙（16x20cm）までのプリントが可能でした。

今回使用した引伸し機で全紙サイズのプリントが可能か？ヘッドの位置を上げて画像を拡大し確認したところ、2017展で展示する『長辺540mmの全紙プリント』であれば対応可能なのが確認出来ました。8x10用の引伸し機で使う大全紙用イーゼルもあるので、これを使えば全紙サイズの印画紙に対応可能。但し、全紙プリントの場合、プリントの乾燥に1日掛かるので当日持ち帰りはできないが…

・8x10用引伸し機がある！

店主は、タチハラの8x10と4x5を使って専らモノクロで作品を撮影しているとのこと、店のHPには掲載されていない8x10用の引伸し機が暗室に鎮座してました。もし8x10の引伸し機が使える暗室をお探しなら、一度相談してみる価値はある。

◎自分に合ったモノクロ写真の楽しみ方を：

モノクロ撮影の場合、「最後のプリントまで自分で出来る」のが大きな魅力です。プリント合わせから露出までを全て自分の判断で行い、更に撮影後のフィルムの現像から最終のプリントの仕上げまで、全てのプロセスを自分の力で行うことが出来るのが、モノクロ写真の世界。

とは云え、モノクロ写真の世界にどっぷり浸かるに従い、必ず「自前の暗室を持ちたい…」と云う欲求（と云うか野望？）が湧いてきますが、狭いながらも楽しい我が家に自前の暗室を…というのはハードルが高い！

かく云う我が家でも「自分の部屋を暗室に改造する！」などと云い出した日には、家族全

員から白い目で見られるのがオチ。

—そんな家庭事情を抱えていても、レンタル暗室を利用することで、何とか暗室作業を楽しむ道は見つかります。（まあ、自前の暗室ほどには「自由気ままに…」とまではいきませんが…）

自分以外の誰にも創ることの出来ない、世界にたった一枚のプリントを仕上げ、それを写真展で展示する…

そんな楽しみ方も、レンタル暗室を使えば誰もが手軽に楽しむことが出来ます！

モノクロ写真を、大いに楽しみましょう！

※※※※※※